

1 年次英語から 2 年次英語へ

From Freshman to Sophomore English

田中 紀子

大手前大学現代社会学部

大手前大学は、2012 年度より「グランドデザイン」のもと、学生が 4 年間を通じて培うべき様々な能力について明確な目標を設定し、その能力開発に向けて動いている。英語については、英語関連科目を継続して履修し単位を修得した者に対して、卒業時には TOEIC550 点以上に匹敵する英語でのコミュニケーション力を身につけさせることを最終目標としている。その実現のために初年次必修の「英語 I」と「英語 II」ではまず TOEIC Bridge を受験させている。選択科目としては、従来すべての学年の希望者に対して TOEIC 対策科目と、英語のみで行われる LEO (Language Education of Otemae) の科目が用意されてきた。しかし、それらとは別に、英文法や英文読解、リスニング、ライティングについて徹底した日本語での解説への学生の要望もあり、今年度より 2 年次学生を対象として「英語 III」と「英語 IV」が開講され、さらに来年度からは「英語 V」と「英語 VI」が増設される。本稿では、過去 2 年間の初年次英語についての分析を行った上で、2 年次英語科目について 2013 年度以降に向けてさらなる授業内容改善への一案を提示する。

キーワード：2 年次英語教育、映画、TOEIC 対策

1. はじめに

大手前大学 (以下「本学」とする) は、独自に作成した「グランドデザイン」に沿って 2012 年度から、より充実した教育の実践に向かうことになった。この「グランドデザイン」に挙げた 14 の各項目について、学年ごとの具体的な目標が設定されており、すべての科目においてその該当する項目の目標達成を目指すというものである。「一般常識」、「情報活用力」、「ライティング能力」以外に「社会人基礎力」や「キャリア選択」などがその項目に含まれており、4 年間を通して学問の専門性のみならず、就業力を身につけさせ、質を保証することがねらいである。

外国語コミュニケーション力の面では、語学力の向上に加えて、自信を持って他言語圏の人と応対できることを最終目標としている。英語については、英語科目を継続履修した者に対して卒業時に最低限 TOEIC550 点に匹敵する学力を習得させ、それまでの各学年終了時にそれぞれ TOEIC 換算スコアの基準を 300 点、400 点、500 点としている。

社会に出てからは英語の運用能力がますます要求

される現在である。入学生が多様化し、英語の習熟度や英語学習への意欲にも大きなバラつきがあるのが現状であるが、なるべく多くの学生の英語への関心を高め、その重要性を認識させ、上記の目標達成へ向かわせたいものである。2012 年度からは初年次必修の「英語 I」「英語 II」の次の段階として、2 年次生には従来のネイティブ教員が主に担当する科目に加えて、日本人教員ならではの長所を活かした「英語 III」と「英語 IV」を開講している。さらに 2013 年度からは 2 年次およびそれ以上の学生の選択科目として「英語 V」と「英語 VI」が増設される。本稿では、まず過去 2 年間の初年次必修英語についての分析を行い、「英語 III」と「英語 IV」の現状を振り返った上で、新しい科目における授業内容への一案を提示する。

2. 2011 年度初年次必修英語

2.1. 2010 年度への反省

2010 年度の初年次必修の「英語表現」においては、プレイスメント・テストの結果により上位約 10%の

学生をネイティブ・スピーカーのクラスに配属し、活字テキストを採用した。それ以外の学生については、各自の習熟度や意欲に応じて3つのレベルのいずれかに希望を出させ、e-ラーニングの統一教材を用いた。レベルにより進度は異なったが、授業方法は同じで、頻出語句や文法事項について教員が説明した後、学生はパソコンから教材にアクセスし、ヘッドホンを装着して各自で問題を解いてゆくという流れであった。4技能のうちリスニングに最も重きを置いた授業であったと言えよう。高校とは異なるe-ラーニング画面の操作や、誤答を出した際にブザー音が鳴るといった目新しさに興味を喚起される、個々の習熟度に合わせたペースで課題をこなせる、繰り返し聴ける、小テストを次々とクリアしてゆく達成感を味わえる、保存された自分の成績を確認できる、などの長所があった。

しかしながら、しばらくすると、ユニット毎の構成が同じであるために多くの学生が退屈感を覚えるようになっていたり、リスニングの文章が途中から長くなって集中力が持続しなくなったり、十分に理解できていないまま適当にクリックをして一応課題を終えてしまうなどの問題点も見られた。パソコンを起動させないと教材を見ることができず、以前のユニットを見返すなどの動作に手間取る、あるいはテキストを手軽に開いて書き込むことができないという不便さが学生から指摘されたこともあった。また、教員の中には、口頭による双方向のコミュニケーションを授業中に取り入れることに努めた者もいたが、概してスピーキングに充てる時間は少なかった。e-ラーニング教材上の文章を声に出すことにより、発音やイントネーションのチェックを行ったり、学習した構文を自分の状況にあてはめて発話したり、教員と、あるいは学生同士で対話を行ったり、というように、英語を実際に活かす場面が少なかったことは非常に残念である。

英語力の客観的な評価には、国際英検 G-TELP (General Tests of English Language Proficiency) を使用した。Grammar, Listening, Reading & Vocabulary の技能分野の能力を測る試験であり、本学で実施したレベル4の試験は、Grammar 問題については授業の難易度と合っていて、受験者には納得のゆくものであったはずだ。しかし、他の分野では語彙や構文のレベルが高すぎた。またリスニングにおいては話されるスピードがかなり速い上に、日

本で広くゆきわたっている TOEIC や英検の出題形式と異なっていて、違和感を覚えた者も少なくなかったであろう。

2.2. 2011 年度における改善

2.2.1. レベル分け

2011 年度には、学生の希望に応じることはせず、プレイスメント・テストの結果によって学生を Advanced, Intermediate, Introductory の3つのレベルに分け、ほぼ20名ずつ、合計36クラスに配分した。Advanced の6クラスはネイティブ・スピーカーの教員、Intermediate の12クラスと Introductory の18クラスは日本人教員が担当した。

2.2.2. テキスト

テキストについては、すべてのレベルにおいて同一のものを使用した。前年度の反省の上で、CD 付きの活字テキストである *TOPNOTCH : English for Today's World Fundamentals* を採用した。筆者がアメリカ人で、指示や説明はすべて英語であるが、このために学生は授業中の教員による日本語での説明を真剣に聞くというプラス面があったと思う。TOEIC や TOEFL への対策としても、英語での指示文に慣れておく方がよいであろう。テキストの構成としては、動詞、代名詞、冠詞など基本的な文法事項をおさえながら、リスニングとスピーキングの練習を多く行えるようになっている。進度は全クラスで統一したが、かなり平易な英語に終始しているテキストなので、担当クラスの学生の状況を判断しながら、各教員が少し難度の高い補助教材を独自に作成して取り入れたり、テキスト以外のアクティビティをやってみたり、逆に Introductory レベルにおいては練習問題のいくつかを省くなどの工夫がなされた。

テキストに付随した CD には、文法、スペリング、会話文の整序、文章読解といった従来の形式の問題が盛り込まれている。また、これら以外にリスニングを取り入れたクイズ形式の問題を解いたり、自分の声を録音してモデルの英語と比較したり、ユーモアを織り込んだスキットを聞き取る、といったアクティビティにも挑戦できる仕組みとなっている。楽しみながら理解を定着させようとする工夫がなされた CD 付きのテキストを採用したのは評価できるであろう。

春学期の授業内容のレベル、スピード、課題の量

などについてゆきかねる学生や、さらに高度のレベルへの挑戦を希望する学生には、秋学期にクラス変更を許可することにしてはいたが、該当者は数名にとどまった。

2.2.3.統一テスト

「グランドデザイン」での英語の目標値は 1 年次終了時に TOEIC 300 点となっている。しかし、もともと英語が苦手な基本的な知識すら習得できていない学生の数を考えると、いきなり全員に正規の TOEIC を受験させるよりは、問題数が少なく、難易度の低いテストの方が、学生たちは真剣に取り組む、手ごたえも感じられるであろうし、自分にとっての弱い分野も明らかになるであろう。また、正規試験に挑戦する気持ちにもつながると考えられる。なるべく授業内で実施を、という時間面での要望もあり、正規試験（所要時間 120 分、200 問）ではなく TOEIC Bridge（60 分、100 問）を採用した。

TOEIC Bridge と TOEIC 正規試験の点数比較は以下の通りである。

合計(180 点満点)

Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC	230	260	280	310	345	395	470	570

リスニング (90 点満点)

Bridge	44	50	56	62	68	74	80
TOEIC	150	160	180	200	230	270	325

リーディング (90 点満点)

Bridge	44	50	56	62	68	74	80
TOEIC	90	100	110	120	140	180	235

(http://www.ets.org/Media/Tests/TOEIC/pdf/ToeicBridge_Cmprsn.pdf)

合計 623 名が受験した年度末の TOEIC Bridge の平均点は、リスニング 58 点、リーディング 53 点、計 111 点であった。これを TOEIC に換算すると、それぞれ 187 点、105 点、284 点となる。Introductory レベルにおいては、どうしても英語への苦手意識が払拭できず、1 年間の必修英語を乗り切るだけで精一杯であったと思われる学生が多い。英語学習への意欲が強く、2 年次に英語科目を継続して履修する可能性の高い Advanced と Intermediate レベルの受講者 (375 名) に限定してみると、その TOEIC 換算での平均点はリスニング 193 点、リーディング 111 点、合計は 301 点となる。すなわち、「グランドデザイン」が設定する英語力を達成したと言ってよいであろう。なお最高点は 164 点で、正規試験に換

算すると 610 点であった。

2.2.4.学生へのアンケート

2011 年度最終回の授業において、4 クラス 70 名に対してアンケートを実施した。学期末試験や授業評価アンケートと重なる時期であったため、今回は全員の教員への依頼は控え、協力を得られた専任教員と筆者が担当するクラスに限定した。4 クラスとも Intermediate レベルであり、平均値に近い結果が得られたと思う。質問事項とその結果は以下の通りである。

(1) *TOP NOTCH Fundamentals* をテキストとして使用した授業の難易度はどうでしたか？

非常にやさしい—5 名 (7.14%)

やさしい—22 名 (31.43%)

ちょうどよい—35 名 (50%)

難しい—7 名 (10%)

非常に難しい—1 名 (1.43%)

(2) 英語関連の資格・検定を取得していますか？

英検 準 2 級—1 名

3 級—7 名

4 級—8 名

TOEIC 350 点—1 名

300 点—1 名

(3) グローバル化の進む日本において、英語力の必要性を感じますか？

非常に感じる—25 名 (35.71%)

時々感じる—40 名 (57.14%)

あまり感じない—5 名 (7.14%)

全く感じない—0 名 (0%)

(4) 来年度 2 年生を対象として、映画や音楽を主な教材とし、リスニングとリーディング力向上を目標とする日本人教員による英語科目が開講される予定です。この科目を履修しようと思いませんか？

思う—42 名 (60%)

思わない—28 名 (40%)

(5) (4)以外に、どのような英語の授業を希望しますか？(複数回答可)

TOEIC 受験対策に特化した授業—28 名

衛星放送ニュースや新聞記事等を用いた時事英語の授業—21 名

ネイティブ・スピーカーによる英語のみを使用する授業—9 名

文法を最初から学ぶ授業—2 名

以上の結果と筆者の経験から、1年次英語においてさらに学生の意欲を高めるためには教員間で次のような事柄を検討し、またこれら以外にもアイデアを出し合い、実行に移すことが必要だと思われる。

- ・検定試験、特に TOEIC の模擬試験問題をほぼ毎回の課題に取り入れる。

- ・指定されたテキストをやさしいと思う学生のために、日常の課題以外に、1ランク上の統一補助教材を準備し、取り組ませる。

- ・Intermediate および Introductory レベルの学生を対象とした合同クラスを行い、ネイティブ教員による英語での授業を体験できる機会を設け、生の英語を理解できる楽しさを実感させる。

3.2 年次生対象の英語科目の現状

本学の初年次学生に対しては、必修科目である「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」のほかに、英語力（特にリスニングとスピーキングの力）をつけたい学生のために、ネイティブ・スピーカー教員が担当する LEO (Language Education of Otemae) の科目群から選択履修が可能となっている。また、TOEIC と TOEFL 受験対策科目も LEO の一部として開講されている。これに加えて、昨年度からオナーズプログラムとして TOEIC 高得点取得対策科目も実施されている。2年次生向けには、メジャー科目として「観光英語」、「英語の音声」など、また LEO では初年次生対象より一段階上の TOEIC や TOEFL 科目も設けられている。しかし、昨年度のアンケート結果にも表れていたように、日本人教員が文法事項やテキストの英文について日本語での説明を行って理解を徹底させる科目、検定対策に特化せず、また1つのメジャーに限定せず、広く英語圏世界の文化に触れながら英語力の向上を図る科目も求められてきていた。

「英語Ⅲ」と「英語Ⅳ」は上記の学生からの要望に応えようとする科目である。今年度春学期にスタートした「英語Ⅲ」では、初年次英語においてカバーしきれなかった文法事項を修得させることに主眼を置き、題材として歌を用いた。ミュージカルやポップスの歌詞、さらにはアメリカ大統領などによる演説の文章も用いて、文法事項の説明、問題への取り組み、和訳練習を行うと同時に、歌や演説を生んだ時代背景や日本人とは異なる価値観について考える機会も設けている。

秋学期に著者が担当している「英語Ⅳ」では、まず「英語Ⅲ」で扱った文法事項に関する問題を解かせた上で、理解が不十分な箇所を見つけ出し、それに基づく多くの練習問題にあたらせている。また、その文法事項を用いた表現が多く盛り込まれた文章を、英字新聞の記事、アメリカの中学生用教科書などから選んでリーディング教材としている。時事問題や世界の諸地域の紹介を題材としたものを主に使用するようにしている。その際に「英語Ⅲ」での語彙より高めのレベルの単語やイディオムを意識し、一部の文章を適宜書き直し、削除や追加も行っている。具体的には、「グランドデザイン」が2年次終了において掲げる TOEIC400点レベルを最低限とし、500点レベルの語彙も多く取り入れるようにしている。

これと同時に、映画『ビッグ』(Big) の合計12の場面を取り上げ、これも教材として用いて、内容理解のための質疑応答の練習も行っている。英語を読む能力が身につけてきても、英語での質問に対して英語での適切な解答を出せない学生が多いためである。日常のコミュニケーションにおいて相互の質疑応答は避けられないものだが、本学の「グランドデザイン」が掲げる「外国語で臆さずコミュニケーションできる」力をつけさせるためには、こうした練習を頻繁に行って、迅速に正確な解答を出せるようにし、自信をつけさせる必要があると思われる。

4. 新たな英語科目の授業内容への提案

本学では2013年度から2年次生以上を対象として「英語Ⅴ」と「英語Ⅵ」が増設されることになった。英語学習に意欲を持つ学生には履修できる科目が増えることになる。また、すでに基礎力が築けている学生には「英語Ⅲ」や「英語Ⅳ」を履修せずに、「英語Ⅴ」または「英語Ⅵ」に取り組むことも可能である。片方の科目においては、将来的に大学院進学や海外での勤務や留学を視野に入れた、より高レベルの文章読解、英語でのレポート作成などを行ってゆくべきであろう。そしてもう一つの科目においては、リスニングとリーディングの両方の面における力を伸ばすために、以下のような授業内容を提案する。

主要な教材として映画を用いる。その理由は以下の通りである。

- ・映像を用いることで、学生の興味を引く。CDの

聴き取りのみでは臨場感に乏しく、退屈してしまいがちだからである。

- ・英語圏の話手の表情や動作の特徴を知ることができる。
- ・効果をねらった演出により、非日常的な話し方がなされる場面もあるが、概して自然なスピードで話されている。
- ・頻繁に行われる省略や短縮の表現を知ることができる。

ひいては、以下の方面への関心を高めることもできよう。

- ・オリジナルの英語と日本語字幕との比較。
- ・小説を映画化した場合の、映画と原作との比較。
- ・映画に扱われた地域、背景となる時代などについての英語資料の調査。
- ・英語圏の人々と日本人の言動や思想の比較。

4.1. 『オズの魔法使』

ここでは例として、1939年に公開された『オズの魔法使』(*The Wizard of Oz*)を用いる。この作品を選んだのは、一般視聴者に広く好まれている映画であり、過激なシーンが取り入れていないというだけではない。アメリカ映画協会(American Film Institute)が2008年に発表した10の各ジャンルにおけるベスト10では、ファンタジー部門で第1位となっていて、映画専門家による評価も非常に高いのである。竜巻で知らない土地へ飛ばされ、冒険を重ねる主人公が少年ではなく少女であること、主人公のドロシーの西への旅は、独善的なアメリカの西部開拓とは全く異なり、彼女は道中で囚われの人々、悩める人々を解放し、「アメリカの建国の理念である『自由、平等、幸福』を実現しようとする自由の女神」なのであるとの解釈もある(高田2004)。大恐慌期のアメリカ人に対して「最も適切なメッセージ」を發した作品であったと述べる者もいる。すなわち、主人公のドロシーが「危機に直面して勇敢で、公正で、リソースフルで、自分自身のディレンマを解決する過程で、同時に他人を助ける能力」を有しており、さらに「自分の家庭や家族に感謝し続ける」人物であるのだ(ジャクソン2002)。この人物像は現代においてもアメリカ人の理想像と言えるはずで、アメリカ人の国民性を知るにも適切な映画なのである。

『オズの魔法使』の英語はくだけすぎてもいないし、俗語も無く、聴き取りやすいスピードの部分も

多い。“Somewhere Over the Rainbow”や“Ding Dong! The Witch Is Dead!”などの挿入歌については、フレーズの聴き取りと共に押韻や倒置、省略といった詩の特徴を学ぶ機会として活用することもできる。

4.2. TOEIC 形式の導入

今年度の「英語 III」と「英語 IV」はTOEIC対策に特化してはいない。検定対策の授業は、下手をすると無味乾燥になる可能性があるし、植山(2009)も案ずるように言語学習と切っても切れない関係にあるはずの文化や人間を軽視してしまいかねない。大学という教育機関で求められる「異文化理解と自己形成」を培う部分が抜け落ちてはならないであろう。しかし、就職活動や卒業後の職場において、英語力を証明する際には専らTOEICが用いられているのが日本の現状である。国際ビジネスコミュニケーション協会の報告によれば、「採用にあたってTOEICの点数を考慮する」と回答した企業は76.8%、「TOEICの点数を配属にあたって参考にする」企業は71.9%であった。また、企業が期待するTOEICスコアとは以下の通りであった(千田2009)。

新入社員	500点	海外部門	750点
営業部門	700点	技術部門	650点

そのため、2013年度の「英語 IV」から「英語 VI」のいずれかの科目では、初年次から2年次春学期において培った英語力をベースとした上で、学生にとって新鮮で興味を持てる映画を材料としながらも、全面的にTOEIC形式を取り入れながら学習を進める授業の重要性は高いと思う。

TOEICでは、日常生活の場面での表現が多量に用いられており、それを分類すると *Threshold Level* に挙げられているものと非常に似通っていると考えられる。*Threshold Level* とは、EU 連合内での日常生活において外国語でのコミュニケーションをスムーズに行えるよう、その外国語能力をつけるにあたって14の分野に分け、各分野で習得すべき語句や文章表現を細かく示した文書である。その1990年版(van Ek & Trim, L.M. 1991)によると、以下の分野が挙げられている。

1. personal identification
2. house and home, environment
3. daily life
4. free time, entertainment
5. travel

- 6. relations with other people
- 7. health and body care
- 8. education
- 9. shopping
- 10. food and drink
- 11. services
- 12. places
- 13. language
- 14. weather

実際、出版されている TOEIC 対策問題集を見ると文法事項ごとに章立てがなされているものもあるが、上のような分野ごとに分けてあるものも多い。たとえば *Starting on the TOEIC Test* では、①Eating ②Leisure ③Sports ④Shopping ⑤Campus Life ⑥Travel ⑦Health ⑧Work ⑨Weather ⑩Cooking ⑪Parties ⑫Movies となっている。また *Achieve Your Best on the TOEIC Test* の構成は、①旅行 ②オフィス ③レストラン ④新聞・雑誌 ⑤広告 ⑥就職活動 ⑦ショッピング ⑧娯楽 ⑨マーケティング ⑩金融 ⑪不動産となっている。「英語 IV」では映画を用いながら、これらの分野に関連する単語、慣用句、案内や説明の文章なども取り入れて教材を作成する。

4.3. 授業内容

日常生活における 4 つの言語技能使用の割合は、リスニング 45%、スピーキング 30%、リーディング 16%、ライティング 9%とされている (Rivers & Temperley 1978)。このうちスピーキングの能力向上のためには、本学では LEO 科目の履修を促すのが最善であろう。

日本人教員が担当する「英語 V」あるいは「英語 VI」では、それ以外の 3 つの能力に焦点を絞り、TOEIC に向けてのトレーニングも兼ねたい。TOEIC の出題数はリスニング 50%、リーディング 50%で、以下のような構成となっている。

リスニング

Part I 写真描写問題 (4 択) 10 問

Part II 応答問題 (3 択) 30 問

Part III 会話問題 (4 択) 30 問

Part IV 説明文問題 (4 択) 30 問

リーディング問題

Part V 短文穴埋め問題 40 問

Part VI 長文穴埋め問題 12 問

Part VII 読解問題 48 問

そのため、リスニング 45%、リーディング 45%、ライティング 10%というおおよその比率で授業を進めるのが良いであろう。『オズの魔法使』の場合、上映時間は 103 分なので、毎回 7~8 分間の分量を鑑賞し、その部分に関連させて TOEIC の各パートに合うように作成した練習問題をこなしてゆくことにする。ここでは、第 1 回の授業案を紹介する。

4.3.1 リスニング

TOEIC Part I 対策

映画を観賞する前に、映画のいくつかのシーンのスチル写真、ポスター、あるいは内容に関連する画像を示し、4 つの英文を読み上げ、画像の描写として適切なものを選ばせる。3 例を挙げる。1)

1. (A) They are running in the woods.
(B) They are taking a walk in a single file.
(C) They are jogging on the beach.
(D) They are walking side by side along a country road.
2. (A) The girl is holding a dog in her arms.
(B) The girl is gently touching the dog.
(C) The girl and the dog are looking in the same direction.
(D) The girl is patting the dog on its back.
3. (A) It's raining heavily.
(B) It's a beautiful sunny day.
(C) A tornado is seen in the distance.
(D) A house has been destroyed by a storm.

正解は 1 (D), 2 (B), 3 (C)



TOEIC Part II 対策

映画を約 8 分間見た後、その内容に関する質問

と解答 (3 つの選択肢) を読み上げ、適切なものを選びさせる。

1. What was the girl doing at the beginning of the movie?

(A) She was rushing away from her neighbor with her pet.

(B) She was running into her house with the dog.

(C) She was enjoying a picnic with her friend.

あるいは、次のようなセリフの中の疑問文を取り出して用いることもできよう。

2. Did she hurt you? She tried to, didn't she?

(A) No, he acted like a gentleman.

(B) She had a heart attack.

(C) Yes, she came after me with a stick.

正解は 1 (A), 2 (C)

TOEIC Part III 対策

映画の中で比較的聞きやすい場面を選び、画面を消して音声のみを流し、配布しておいた紙面上の質問への適切な解答を選びさせる。

Dorothy: Just listen to what Miss Gulch did to Toto! She . . .

Aunt Em: Dorothy, please! We're trying to count! Fifty-eight . . .

Dorothy: Oh, but Aunt Em, she hit him over the . . .

Uncle Henry: Don't bother us now, honey. This old incubator's gone bad, and we're likely to lose a lot of our chicks.

Q1. Who are the speakers?

(A) Dorothy and her parents

(B) Dorothy and her classmates

(C) Dorothy and her relatives

(D) Dorothy and the farm workers

Q2. How is Dorothy feeling?

(A) Delighted (B) Upset

(C) Indifferent (D) Impressed

正解は 1 (C), 2 (B)

TOEIC Part IV 対策

Part IV における様々な種類の説明文の聴き取りに備えるためには、映画の中でニュースや演説が取り入れられている場合はそれが適切な教材となる。

『オズの魔法使』のようにそれが無い場合には、日頃からニュースや講演、インタビューなどを録音し、その中から TOEIC で扱われる分野に関連した文章を選んで用いればよいであろう。英文を聞かせた後、配布しておいた紙面上の質問に答えさせる。ここでは、2012 年 3 月 2 日放送の竜巻を扱ったアメリカ ABC ニュースの文章を用いて、それに関する問題を作成した。

We turn next to the nation's heartland where they are bracing for more tornadoes tonight after the wall of twenty twisters barreled through seven states in 36 hours. And that same area of the country is in the bull's eye again tonight.

New storms will descend after midnight. And they are powerful. [中略] The twister that flattened nearly 300 homes in Harrisburg, Illinois, authorities now believe was an EF4 tornado, nearly 200 yards wide with winds nearly 170 miles an hour.

Q1. How many states have the twisters hit?

(A) Four (B) Seven

(C) Twenty (D) Thirty-six

Q2. What happened to nearly 300 homes in Harrisburg?

(A) They were crushed.

(B) They were blown away.

(C) They were burned down.

(D) They were undamaged.

正解は 1 (B), 2 (A)

TOEIC のリスニングでは数か国の英語が用いられている。異なった発音の英語に慣れるために、アメリカの ABC や CNN 以外に、オーストラリア ABC、BBC などのニュースを、あるいは、主として用いる映画がアメリカ英語であれば、イギリス映画などの一部をも取り入れたら良いであろう。

4.3.2 リーディング

TOEIC Part V 対策

ここでは、『オズの魔法使』の内容に即した 1 問、および Part IV 対策と同様に天候に関連した文章について作成した 1 問を例として挙げる。

1. There was a small hole, dug in the ground, where the family could go _____ a tornado struck them.

- (A) as far as (B) in case
(C) on behalf (D) with regard

2. The Meteorological Agency predicts that this stormy weather will last ____ week.

- (A) another (B) further
(C) more (D) other

正解は 1 (B), 2 (A)

TOEIC Part VI 対策

Part VI は長文中の空白の部分に入る適切な語句を選ぶ問題であり、文法と語彙の両面について出題される。文脈を理解しなければ解けない問題もあるが、たいていは Part V 向けの問題を多くこなしておけばスムーズに解けるはずである。ここでは、映画の原作であるボーム (Baum) による『オズの魔法使い』(*The Wonderful Wizard of Oz*) の出だしの部分を用いて作成した問題を紹介する。

Dorothy lived in the midst of the great Kansas prairies, with Uncle Henry, who was a farmer, and Aunt Em, who was the farmer's wife. Their house was small, for the lumber to build it had ____ 1 ____ by wagon many miles. There were four walls, a floor and a roof, ____ 2 ____ made one room; and this room ____ 3 ____ a rusty looking cooking stove, a cupboard for the dishes, a table, three or four chairs, and the beds.

1. (A) carried (B) carry
(C) been carrying (D) to be carried
2. (A) what (B) where (C) which (D) who
3. (A) contained (B) divided
(C) faced (D) owned

正解は 1 (D), 2 (C), 3 (A)

もう一例として、アメリカを毎年襲うハリケーンについての 2012 年 5 月 29 日放送の CNN Student News をもとに作成した問題を提示する。ただし、ニュースキャスターによる実際の文章には省略がなされていたこともあり、若干変更を施した。

The naming system for hurricanes is based ____ 1 ____ the World Meteorological Organization. There's a list of names. In the Atlantic Basin, we recycle the names every six years. If a storm becomes particularly ____ 2 ____ or is devastating for a coastline, or has a lot of casualties ____ 3 ____ with it, we retire the name and don't use it

again, for example, Hurricane Katrina, ____ 4 ____ name will never be used again.

1. (A) at (B) from (C) in (D) on
2. (A) calm (B) intense (C) mild (D) strict
3. (A) associate (B) associated
(C) associates (D) associating
4. (A) what (B) which (C) who (D) whose

正解は 1 (D), 2 (B), 3 (B), 4 (D)

もちろん、文章と問題の解説後にこのニュース映像を流せば、リスニングの練習になることは言うまでもないだろう。

TOEIC Part VII 対策

英語での説明、案内、広告、手紙、新聞記事の文章や表、グラフの読み取り等に慣れさせることが Part VII 対策として望ましい。ここではまず、映画での色の使い方について『オズの魔法使い』にも言及したフィリップス (Phillips) の文章を取り上げ、それに基づいて作成した問題を紹介する。

From the early days of cinema, filmmakers have occasionally combined color shots and black-and-white shots in the same film. The most famous example is *The Wizard of Oz* (1939), which renders Dorothy's ordinary life in Kansas in black and white and her adventures in Oz in color. *Schindler's List* (1993) reverses the situation: the opening and closing are in color and are set in the present, whereas, with the exception of a red coat on a little girl, the body of the film is in black and white and is set in the past.

Q. In the movies mentioned above, how are the black-and-white shots used?

- (A) For the unexpected happenings that Dorothy experiences.
(B) To portray the heroine's daily life in *The Wizard of Oz*.
(C) For the closing scene of *Schindler's List*.
(D) To depict the present in the movie of 1993.

正解は(B)

第 1 回の授業では天候に関連する文章を多く扱う予定なので、次のようなニューヨークのセントラルパーク内のツアーについての案内文も教材として用いることができる。ただし、TOEIC 問題の語数に近づけるため、Central Park Conservancy のホー

ムページ上の文章の一部を削除して問題を作成した。

Discover the Park's history, ecology, and design on volunteer-led walking tours. Year-round, the Conservancy offers free walking tours that highlight several areas of Central Park. These tours take place rain or shine, except in extreme weather conditions (heavy rain, sustained winds of 30mph or more, snowstorms, and temperatures 25 degrees and below or 95 degrees and above). All tours are led by experienced guides who are volunteers in the Central Park Conservancy Walking Tour Program. Each tour lasts from an hour to two hours. Children under 16 must be accompanied by at least one parent or guardian.

Q1. What can the participants do on this tour?

- (A) Enjoy cycling in the park
- (B) Learn about when the park was founded
- (C) Listen to the mayor's speech
- (D) Receive training to be a park guide

Q2. Which of the following is true?

- (A) If your son is twelve years old, you have to join the tour with him.
- (B) The tour is not conducted on national holidays.
- (C) The tour finishes in less than sixty minutes.
- (D) When the wind blows at fifteen miles per hour, the tour is cancelled.

正解は 1 (B), 2 (A)

さらに、熱帯性低気圧について Central Pacific Hurricane Center の報告による月別のグラフに基づいて作成した問題も挙げておく。

Q1. How many years' data are covered by this graph?

- (A) 35 (B) 80 (C) 1971 (D) 2005

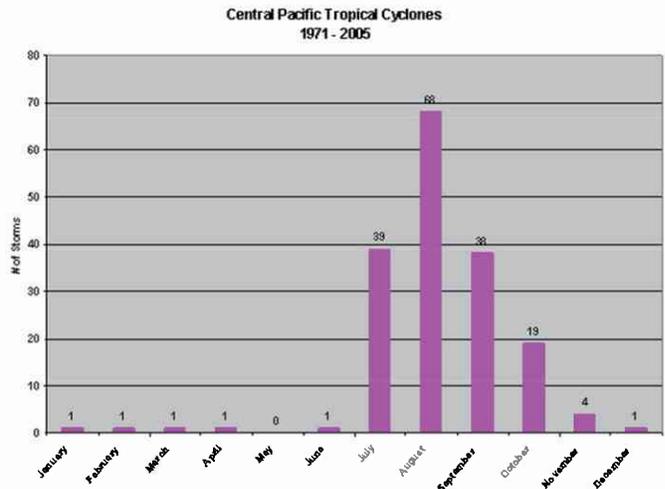
Q2. Which of the following can be called the tropical cyclone season of this region?

- (A) January – March (B) April – June
- (C) July – September (D) October – December

Q3. By how many cyclones does August exceed September?

- (A) 30 (B) 38 (C) 68 (D) 106

正解は 1 (A), 2 (C), 3 (A)



4.4 その他

4.4.1 リスニング力の強化

映画を用いたリスニングのトレーニングを行う際、初心者の場合にはまず日本語字幕でストーリーを理解し、次に英語字幕で英語表現をおさえ、最後に字幕無しで見直すことが勧められている (千田 2009)。NHK BS1 の『ABC ニュースシャワー』で用いられている手法でもあり、「英語 IV」でも毎回約 8 分の分量についてこれを実施することが理想的である。しかし、これまで示した 7 種類の形式のうち、少なくとも Part I, II, III, V について最低 5 問ずつこなすことが必要だと思われるので、授業内ではこの練習は数場面に限られてしまう。そのため、意欲のある受講生には授業時間外に全体を通してこの練習を行うことを奨励すべきであろう。

『オズの魔法使』のような古典的な作品を用いた場合には、現代の英語にも触れる必要がある。Part IV 対策ではニュースを取り上げたが、最近の映画の一部を用いて今風の口語表現の特徴を知る機会を設けるのもよいと思われる。1996 年に公開された『ツイスター』(Twister) は、野卑な口語表現は非常に少ないし、竜巻というテーマの共通点もあり、CG によるリアルな竜巻の猛威を知ることでもできる。父親を竜巻で失い、今は国立暴風研究所の研究者となったジョーが、新たに開発した観測装置を素人のメリッサに説明する次のような場面は、ディクテーションの練習にも活用できる。

Jo: Scientists have been studying tornadoes forever, but still, nobody knows how a tornado works. We have no idea what's going

on inside because no one's ever been able to take scientific measurements from inside the funnel. That's what she's gonna do.

Melissa: How?

Jo: We put her up inside a tornado. She opens up, and releases hundreds of these sensors that measure all parts of the tornado simultaneously.

この映画の舞台は『オズの魔法使』のカンザス州に隣接するオクラホマ州であり、竜巻の観測装置が「ドロシー」と名づけられ、映画のジュディ・ガーランド扮するドロシーの姿が装置の上に描かれているという関連性も楽しめる。

American Film Institute による“10 Top 10”のファンタジー部門をショーン・アスティンが紹介した際の次のような文章もリスニングには適切な教材である。

Here is where the dream factories dream most vividly – in a realm of fantasy. Here is where the creatures manifest themselves in settings both real and imaginary, where the rules of the natural world do not apply, where wishes come true.

スタンダードな英語が用いられているし、このあと映画 10 作品が順に示されるので、別の映画に取り組む意欲を培う効果も生まれるであろう。

4.4.2 リーディング力の強化

原作の小説をボーダー (Border) が平易な英文に書き直した Oxford University Press 版は、授業内での速読に用いることができる。映画で内容を理解した後ならば、速いスピードで読み進むことが可能となり、自信にもつながるはずである。

この原作が出版された 1900 年当時、すなわち発展の一途を辿っていた頃のアメリカについての解説文も取り入れたい。さらに意欲のある学生には、関連のある歴史学、社会学、映画学の論文にチャレンジさせることにより、卒論や大学院入試への基盤作りにもなるだろう。

4.4.3 ライティング力の養成

授業内にライティングを行うとかなりの時間を費やすことになるので、以下の方法を取りたい。

・授業で使用した単語やイディオムの中から、まずは TOEIC 500 点レベルまでのものを抽出し、次回

の授業の初めに小テストを実施し、スペリングと用法を徹底させる。受講者の英語力を判断した上で、このレベルを順次引き上げてゆく。

・映画の内容に関する質問を数多く作成し、Part II 対策で用いた以外の質問を配布し、それに対する英語での解答作成を課題とする。

・各回に見る映画の部分について、次回までに英文で要約を書かせる。これが困難な場合は、要約の英文に設けた空所補充の形式で文章を完成させる。

・映画への感想、あるいは竜巻、カンザス州、原作者など各自が関心を持ったテーマについて約 250 語の英文を作成し、学期末に提出させる。

本学の「グランドデザイン」の英語教育の目標を見据え、以上のような授業内容を練り上げた。受講生の個々の習熟度により、個人差が出ることは当然ではあるが、この内容を実施する科目を含め、「英語 III」から「英語 VI」の科目すべてを受講することで、TOEIC スコアに換算して 500 点のレベルにまで引き上げることは可能なはずである。

5. おわりに

本稿では、2 年次生を対象とした新年度からの英語科目における、映画を用いた第 1 回の授業案と、リスニング、リーディング、ライティング力の向上のための提案を行った。

学生の英語力を効果的に伸ばすためには、ネイティブ・スピーカーが担当する英語科目との緊密な連携も不可欠であり、4 年間の英語教育を見通した議論をさらに重ねることにより、「グランドデザイン」の実現に向けてさらなる変更や改善を施してゆきたい。

注

1) 3 枚の画像はそれぞれ以下のウェブページ上のものを使用した。

1. http://esl-bits.net/Books/Wizard_of_OZ/index.html (参照日 2012.05.29)

2. <http://awrinkleintime.wordpress.com/2009/06/12/100-humanity/> (参照日 2012.05.29)

3. http://www.prh.noaa.gov/cphc/pages/FAQ/Tropical_Cyclone_Records.php (参照日 2012.06.03)

参考文献

- ABC News. 2012 年 3 月 2 日放送.
- American Film Institute (2008). *AFLS 10 Top 10*.
<http://www.afi.com/10top10/> (参照日 2012.05.20)
- Baum, L. Frank. (1984). *The Wonderful Wizard of Oz*. New American Library, New York.
- Baum, L. Frank. (2008). *The Wizard of Oz*. (Retold by Rosemary Border). Oxford University Press, Oxford.
- Central Pacific Hurricane Center. *Tropical Cyclone Records*.
http://www.prh.noaa.gov/cphc/pages/FAQ/Tropical_Cyclone_Records.php (参照日 2012.6.20)
- Central Park Conservancy. *Official Website of New York City's Central Park*.
<http://www.centralparknyc.org/visit/tours/guided-tours/>
 (参照日 2012.6.20)
- 千田潤一 (2009) *English Trainer for the TOEIC Test*. 朝日出版社, 東京.
- CNN Student News. 2012 年 5 月 29 日放送.
- キャシー・マーロック・ジャクソン (2002) 『アメリカ映画における子どものイメージ』(牛渡淳訳) 東信堂, 東京.
- Phillips, William H. (2002). *Film: An Introduction*. Bedford/St.Martin's, Boston.
- Rivers, Wilga M. & W. S. Temperley. (1978). *A Practical Guide to the Teaching of English as a Second or Foreign Language*. Oxford University Press, New York.
- Saslow, John & Allen Ascher. (2011). *TOPNOTCH : English for Today's World Fundamentals, Second Edition*. Pearson Education, New York.
- 高田賢一 (2004) 『アメリカ文学のなかの子どもたち』ミネルヴァ書房, 京都.
- 鶴岡公幸 & Matthew Wilson. (2012). *Achieve Your Best on the TOEIC Test*. 松柏社, 東京.
- 植山剛行(2009) 『英語教育改善のためのプログラム化とマネジメント』大学教育出版. 岡山.
- Van Ek, J.A. & L.M. Trim. (1991). *Threshold 1990*. Cambridge University Press.
- 安浪誠祐 & Richard S. Lavin (2011). *Starting on the TOEIC Test*. 朝日出版社, 東京.

[DVD]

- ヤン・デ・ボン (監督 1996) 『ツイスター』(DVD 2002) ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント, 東京.
- ヴィクター・フレミング (監督 1939) 『オズの魔法使』(DVD 2010) ワーナー・ホーム・ビデオ, 東京.

- ペニー・マーシャル (監督 1988) 『ビッグ』(DVD 2010) 20 世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン, 東京.

SUMMARY

Otemae University states in its Grand Design that the students, through four years of English education, are to obtain the communicative ability in English equivalent to TOEIC 550 or more at the time of graduation. In order to achieve this goal, TOEIC Bridge is conducted in the compulsory English I and II for freshmen, and there are TOEIC classes for students freshman through senior who aim to improve their TOEIC scores. There are also LEO classes that are taught in English by native speakers.

In addition to these classes, English III and IV started in 2012 since there had been a great demand among the students for a class that deals with movies and music with an explanation in Japanese about English grammar, text interpretation and the culture of English-speaking countries. In 2013, English V and VI will start for sophomores and upwards who are eager to enhance their English ability.

In this paper, I look back on the past two years of freshman English and briefly on the contents of English III and IV, then make a proposal for a teaching method to be used in either English V or VI, where preparation for TOEIC is incorporated.

KEYWORDS: Sophomore English, TOEIC, movies